

## 令和4年度：iDA健康保険組合事業概要

☆広報強化による特定健診・特定保健指導の受診率の向上

☆感染症をふまえたICT活用の保健指導にインセンティブを付与

☆食生活・運動習慣改善のアプリを活用した保健事業の展開

☆医療給付費の適正化と冗費の削減

☆健康経営に生かす実効性が高い保健事業の提供

### 保険料率

一般保険料率      88.7/1,000

再掲      (特定保健料率 24.74/1,000)

調整保険料率      1.3/1,000

介護保険料率      15/1,000

- ・一般勘定収入支出予算額      1 3 億 4 8 6 万円
- ・被保険者一人当たり      2 5 5, 8 5 5 円

iDA健康保険組合の令和4年度予算が、近畿厚生局において承認されました。

一般勘定の総予算規模は、対前年比4億9千436万円増の13億486万円となり対前年比55.29%増の予算になりました。

これは経済環境悪化に一応の歯止めがかかり、母体企業の吸収合併による被保険者数増員による財政規模の拡大となったことが主な要因です。

高齢者医療関係拠出金の増額は、支援金の概算支援金が財政規模の拡大により膨らんだこととペナルティ加算が要因ですので、健診受診率改善については善後策の検討が喫緊の課題です。

併せて前期高齢者納付金を上げているのは、前期高齢者の一人当たり医療費が422,228円と昨年度と比較して増加し、併せて高齢者加入率が低い上に前々年度の確定前期高齢者納付金額の調整が深く影響しています。

さて、政府では全世代型社会保障改革の第一弾として令和4年10月1日に後期高齢

者の窓口負担の見直しが行われます。

高齢者納付金の重みが増す健保組合の財政運営上好材料としての改革が、今後続くことを期待するものです。

令和4年度予算編成時のiDA健保は、医療費支出は安定した横ばいながら、拠出金等が増加傾向の経年変化を呈してきました。

予算編成においては、健康づくりと予防を重視する保健事業の充実と効率性を図るものとなりました。

予算配分における保健事業費（所要財源率8.68%）で、総額129,892千円となりました。

特定保健指導は、ICTを活用した保健指導にfitbit 或いはフォミュラー食を付加したものにバージョンアップして提供し指導率アップを図ります。

体育奨励事業は、アプリを活用した総合的な食習慣・運動習慣の改善と歩数管理を行い皆さまが楽しんで取り組める事業を展開します。

二次健診受診勧奨として、受診者にクオカードペイのインセンティブを付与します。

また、コロナ禍を睨んだ感染症対策として、特定保健指導としてICTを活用した保健指導を提供します。

子宮頸がん対策には自宅から検体を送付する形態の郵便検診の充実を図ります。

歯周病対策として、出張歯科健診のサービスも提供し歯と口の健康を推進します。

メンタル対策にはチャットボットサービスを付加した相談を提供していますが、必要な方が確実に利用できるよう広報の強化を図ります。

iDA健保は設立から4年目を迎え、財政状況は前年度末準備金保有率が328.3%、年度末準備金保有率は428.96%と安定したものとなって参りました。

続いて、介護勘定に目を転じますと、令和4年度介護納付金33,851千円と対前年比12,979千円の減に対し、第2号被保険者数が対前年比で790人増の1,600人と増加して介護保険料収入も増加する安定した財政状況になって参りました。

令和4年度の介護勘定設定料率を20%から5%引き下げ15%とします。

介護勘定準備金保有率においては、1034.72%と見込まれます。

最後にiDA健康保険組合では、レセプト点検や柔整療養費のチェック強化、無資格受診者への返還請求など冗費削減へ向け努力をして参ります。

依然としてコロナ禍の気を病む毎日が続きますが、健康に留意され、健康診断や保健指導の受診を心がけていただくようお願い申し上げます。

併せて、iDA健康保険組合の事業運営へのご理解とご協力をいただきますよう、重ねてお願い申し上げます。

(iDA健康保険組合：常務理事 島田弘幸)